

木をノック（英語で幸運を願うという掛け言葉）：吉野の高品質のスギとヒノキは完璧な工芸品を作る

吉野で私が経験した最も忘れられない経験の 1 つは、地元の製材所の倉庫を歩いたことです。それぞれがその起源を証明するブランド（刻印）で飾られた何千もの木材の板は、夏の終わりの暑さの中で乾かされていました。ヒノキとスギの深い森の香りが滲み出ており、さわやかでリラックスした雰囲気でした。私はその香りを瓶詰めして家に持ち帰りたかったです。確かに、吉野の森には魔法のようなものがあり、彼らは、アカデミー賞を受賞した女優ジュリエット・ビノチェが主演する 2018 年の長編映画「Voyage à Yoshino」の奈良生まれの監督である川瀬直美などのアーティストにも魔法をかけています。

木に関して言えば、吉野には桜の木よりもはるかに多くのものがあります。奈良県の中心部に位置し、その 77% が森林に覆われている吉野には、吉野材として知られる高品質の木材製品を生産する長い伝統があります。それは強さ、そしてピンクと白の色あいの両方で有名で、東京の高級な六本木ヒルズのような場所で見ることができます。そこでは、高級メガネ店で全て杉でできたディスプレイに仕立てられています。しかし、それは多くの用途の 1 つにすぎません。

吉野の木材産業の主な木は、スギ材とヒノキ材で、それぞれ木材製品の約 80% と 20% を占めています。それらは剛性のために建材として特に望ましいです。木質繊維が密集しており、木輪が互いに近い間隔であるため、平均剛性値は日本の他の地域の木よりも高くなっています。吉野の杉の木には節目がほとんどないため、天井、床、浴槽、その他のインテリア家具はもちろん、酒樽などの製品にも最適です。

少なくとも 1500 年代から、吉野地方ではスギとヒノキが栽培されています。主要な材木市場である大阪の近くに位置し、木材の輸送に使用されていた吉野川により、吉野は建材の供給地として栄えました。16 世紀後半、豊臣秀吉（1537-1598）は大阪城やその他の要塞の建設に吉野の木材を使用しました。東大寺、神社、関西地方の無数の歴史的建造物などの仏教寺院も吉野の森の木材で作られていました。19 世紀と 20 世紀には、鉄道が木材輸送の手段として川に取って代わり、吉野木材はより多くの市場に参入しました。日本で最初に国産されたバイオリンは奈良の木から作られました。一方、土倉庄三郎（1840～1917）は、苗木を密に植え、間伐を行い、成長と切断のサイクルを長くすることを重視した植林方法の開発により、産業の拡大を支援しました。土倉法は後に日本全国で採用されました。

近年、奈良の職人が吉野の木からさまざまな製品を作り上げています。最も人気のある例の 1 つは、建材用の製材用木材から残った廃木材から作られた高品質の箸です。地元の工房アップル・ジャックのお茶碗は、重量が 45 グラム未満で、一塊の木材から削り出されており、木材の真っ直ぐな木目（マサメ）により日本で最も軽量です。桜井市の工場である夢咲花は、スギ仕上

げのエレガントなボールペンとシャープペンシルを製造しています。吉野の木材は、時代を超えたおぼん、お弁当箱、皿、カップ、花瓶、おもちゃ、燭台、さらには化粧ブラシの製造にも使用されています。これらの愛情を込めて生産された工芸品は、吉野への訪問者にとって素晴らしいお土産になります。